

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2295100164		
法人名	社会福祉法人 正生会		
事業所名	グループホームつばさ(1階ユニット)		
所在地	焼津市田尻北790		
自己評価作成日	令和6年7月10日	評価結果市町村受理日	令和6年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_022_kan=true&amp;UrvosyoCd=2295100164-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_022_kan=true&amp;UrvosyoCd=2295100164-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和6年9月10日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

感染対策を行い、コロナ禍で実現できなかった事に積極的に挑戦している。折り紙教室・ギター演奏会・三線などおたっしやクラブとの定期的な合同レクリエーションを利用者の皆さんはとても楽しみにしている。窓から見える場所には、なすやピーマンなどの野菜を植え、収穫した野菜は毎日の料理に使っている。獅子木遣り、市役所展望台、焼津の秋を見つけに行こう!!など、思いついた街や催しに触れる機会を沢山企画している。ブレイクダンスを行った際には若い先生の言葉に、生き生きとブレイクダンスに挑戦する利用者の姿が印象的だった。個々の利用者の思いを大切に、ユマニチュードの取り組みも継続して行っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

例えばボランティアの木遣りは職員がそのグループに所属していることから、何事も地域と密着した取組となっていることが特長的な事業所です。花や野菜を植え、成長を楽しみとしながら食卓に取り入れるほか、大井川港に寄港したにっぼん丸を観に行くといった非日常にも果敢で、外界からの刺激に対し、感情や気分が波をたてるのが自然にできていて、認知症の維持に寄与しています。生活面においても、例えば「洗濯機の中に入れる、スイッチは押せる、干せる」など作業を小分けして検討するとともに、「まず見せてみる、触ってもらう、一緒にやってもらう」と段階を追って取組んでいくことで、機能が復調した利用者もいます

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念:「笑顔あふれる和みの家～共に安心して、思いに寄り添う安らぎの場～」。理念に基づいた部署目標と個人目標を設定し、日々の業務に取り組んでいる。また利用者が家族との絆を実感できるようにご家族様にもご協力いただきながらチームケアを展開している。	「笑顔あふれる和みの家～共に安心して、思いに寄り添う安らぎの場～」の理念は、「みんなが幸せになれる場所」と解釈して運営しています。利用者第一はもちろんですが職員も家族も大切な存在と考えて三位一体での取組を充実させていることが特長です	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	音楽療法その他、折り紙教室・漢字教室・ギター演奏などおたっしゃクラブとの合同レクリエーションに参加。また散歩やバスハイクに出掛けると、小学生が「こんにちは」と挨拶をしてくれたり、ご近所の方が「車を入れて庭の花を見ていって下さい」と声をかけて下さるなど、地域の皆さんとの心温まる交流が深まっている。	隣に特別養護老人ホームがあることで地域との関係もスケールメリットを得ており、地域の人たちがおこなうギター演奏や折り紙教室が身近にあります。また「思い出ある場所を訪ねよう」との意識も高く、多彩な外出支援は利用者の回想に突っています	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍が明け、春には地域の桜まつりも開催された。祭り会場には、ほとんどの利用者が足を運び、地域の皆さんと一緒に楽しい時間を過ごした。祭り会場では、地域の皆さんが声を掛けて下さり、利用者の皆さんも嬉しそうにんでいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みや現状報告を行い、助言をいただいている。コロナ禍が明け、顔を合わせて会議を開催できることに感謝している。地域の情報や課題など運営推進委員の皆さんから意見をいただいている。	過去には参加者から「レジュメが見にくい」との意見が挙がり、「利用者もきっと見にくいよね」と拡大コピーをおこなうようになっていました。また、元自治会長からはさくらまつりの情報を得て、あらたな交流が生まれた例もあります	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の他、メール等を通し情報や助言をいただいている。市への事故報告の提出についてはメールにて行い、迅速な報告に努めている。	地域包括支援センターからは日常的に空室の問い合わせがあります。また近年は警察が絡む案件があり、両方で協力し合って空き情報の共有をしつつ最終的に入所につなげたというケースもあり、日頃の関係構築が役立っています	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会、身体拘束適正化勉強会を開催している。対象者を決め、事例研究を行い、身体拘束に至る前段階でのケアのあり方について学び、実践している。また施設内研修ではその学びをまとめ、動画配信を行った。	身体拘束適正化委員会は定着を果たし、同委員会の委員職が法人の虐待防止検討委員会に参加していて、本年追加改正のあった義務化は適切に手続きが進んでいます。議事録は内部で供覧、確認印もあります	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、高齢者虐待防止勉強会を開催し、学びを深めている。また法人全体で、虐待防止委員会を開催し、高齢者虐待防止に向けた意識調査や不適切ケアに関する意識調査等を実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についてのDVDを使用して勉強会を開催し、学びを深めている。成年後見制度を利用または利用を検討している家族に対し、助言・支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実行している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置。家族への電話連絡やカンファレンス開催時、面会等の来所時には、意見・要望等の確認を行っている。カンファレンスにはキーパーソンだけでなく、その他のご家族も出席して下さることもあり、多くの意見をいただいている。	事業所では利用者にとって家族をかけがえのない存在と認識しており、家族も利用者を大切にしてくださっています。「甘酒なら飲むと思います」「お嫁さんが持ってきたというと思って食べると思っています」といった提案があり、職員との協力関係ができています	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会開催前には、全職員にアンケートを取り、職員からの意見に耳を傾け、業務改善につなげている。また利用者にも「楽しんでほしい」という職員の気持ちを大切に、レクリエーションの企画や季節のメニューなど職員からの提案を大切にしている。	アンケートを取ってそれについてまずフロアごと話しあっていて、それを「フロア会議」と呼んでいます。その後事業所全体の職員会議として「全体会」を開催しており、情報交換が密とする仕組みがあります	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、各職種に応じた評価表を用いて、職員が自己評価を行い、上司が個々の職員の成果や努力に対し、評価している。また評価の際には個人面談を行い、評価表だけでは表せない成果や職員の思いについても確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は実際に一人一人が体験できるよう複数回に分けて少人数で行ったり、全職員が周知できるようWebを使うなど工夫している。認知症介護実践者研修や外部研修にも参加している。また研修費助成規程を設け、職員の学習意欲を助長し、資質向上とキャリアアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での交流(委員会・勉強会・行事)や外部研修に参加できる機会を多く作り、広い視野でケアに当たることができるよう取り組んでいる。R5年度には他施設の訪問によりショットグラスでの水分提供を開始した。Instagramのフォローにて他施設のレクリエーションの様子を学び、取り入れている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	暫定プランの作成。センター方式B-3シートの記入。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	暫定プランの作成。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定プランの作成。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	センター方式 D-5シートにて利用者に対するかかわり方のまなざしや態度の振り返りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染対策の配慮しながらも家族との時間を大切にできるよう工夫をしながら面会時間を設けている。家族との散歩やドライブ、法事への参列など、家族と連携し実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく、ご近所の方が面会に来て下さる方もおり、在宅で生活していた頃と同様のつながりを継続している。またバスハイクでは市役所の展望台や地元の商店街など思い出の場所への外出を楽しんでもらっている。	大漁旗やみなとマラソン、水産試験場の水族館、魚釣り大会、菊花展と思い出の場所への訪問は豊富で、利用者の発語を引き出す事につながっています。一方、自動の会計機やセルフのガソリンスタンドなど新しいことへの体験も支援しています	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係にも配慮し、職員が間に入り橋渡しをしている。座席も一つの場所に固定せず、その時々状況に応じて移動できるようにしている。また事例研究を通し、利用者が孤立せず、生活できるよう取り組みを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期療養のためやむを得ず退所された利用者やご家族より、「またつばさで生活したい」というご希望をいただくことがある。必要に応じて、経過のフォローを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式 C-1-2、心身の情報(私の姿と気持ちシート)を利用して本人や家族の意向を確認しながら本人の立場で記入し、本人本位のケアプランを作成している。またユマニチュードの取り組みを継続して行っている。	センター方式やユマニチュードを通じて利用者の思いを確認しています。さらに、ハンドマッサージが得意な職員の施術を受けていた利用者は、目を閉じてゆったりと気持ちよさそうにしている、このような機会にも意向把握が進んでいるだろうことが伝わります	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族や本人から生活歴や趣味、生活環境を聞き取り、本人がどのような暮らし方をしてきたかを把握している。暮らしの歴史の中から、本人が安心して生き生きと暮らす手がかりを見つけ馴染みのある暮らしが継続できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式C-1-1、D-1.2を用いて24時間の生活の流れや本人ができそうなことを見つける機会を作り、力を引き出している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度モニタリングを実施。介護計画が計画通り実施されているか、本人らしい生活を送るために課題はないか見直しを行っている。また半年に一度本人、家族、介護職、看護師、管理者、計画作成と会議を開催。出席者の意見を反映し、チームで介護計画を作成している。	カンファレンスで家族から意見を伺う場合は、介護支援専門員、計画作成担当者、介護職員も同席していることから、サービス担当者会議と位置付けています。キーパーソンは姉でも弟も出席するのは稀ではなく、家族とのチームケアが実現しています	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別カルテはSOAPの書き方で記録を行っている。出勤時には必ずカルテを確認し客観的な事実、根拠を基に実践した結果を把握している。情報を共有する中で、新たな課題があればその場で話し合いを行い、介護計画の見直しに役立て特記事項として記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	園芸・誕生会・レクリエーション・季節メニューなど利用者やご家族のニーズを最大限に取り入れることができるよう実施の2ヶ月前から起案を立て、準備を行う。またおたっしやクラブとの合同レクリエーションなど施設外の人達との交流も定期的実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	大漁旗、みなとマラソン、水族館、魚釣り大会、獅子木遣り、コスモス畑、秋祭り、焼き芋大会、菊花展、焼津の秋を見つけに行こう!!など思い出のたくさん詰まった街や催しに触れる機会を沢山企画している。またブレイクダンスを通し、若い先生との交流はとても良い刺激となった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員の利用者が協力医の往診を利用している。利用者1人に対し、月2回往診あり。体調経過を往診時対応表に記載して医師への情報提供とし、看護師が日頃の様子を主治医に報告している。また薬局との情報共有も綿密に行われている。	協力医の訪問診療は月2回あり、事業所の看護師とともに介護職員も立ちあっています。看護師は「最近の状況」「不足の薬」の情報を事前にまとめたうえで医師と共有、受診後「変更事項」の欄に変更点を記載しており、薬局にもFAX送信しています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	軟膏一覧表・未排便時の対応表の作成、薬事情報の差し替え。看護師不在時にはラインにて看護師に報告。往診・受診結果についても、看護師から介護職員へ申し送りを行い、看介護ともに統一したケアに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は直ぐに担当の相談員や病棟看護師を確認し入院時情報提供書を作成し、手渡しで顔が見える関係を築いている。また状況に応じてFAX、電話にて情報交換を行い、早期に退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に変化があれば随時家族に連絡を行い、カンファレンスを行い、家族の意向を確認しながら事業所でできることを説明し同意を得ている。また、半年に一度行うカンファレンスでは都度、急変時対応確認書にて緊急時や終末期のあり方を確認しチームで情報を共有している。	「急変時対応確認書」は半年毎のモニタリングで見直しを図っていますが、看取りは基本的にはおこなわない方針です。家族と本人の希望を確認したうえで、口から水分やゼリーが摂取できればケアを継続しますが、何も食べられなくなったら移設を進めています	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて定期的に訓練を行い、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルの整備。定期的な防災訓練の実施。つばさ方式の組手にて特養2階へ利用者を搬送する訓練を実施。定期的に防災頭巾の見直しを実施。全職員に専用アプリにて、現在の状況や指示を伝達。専用アプリは災害時だけでなく、研修の動画配信や職員間の伝達など、普段から活用し、緊急時にもスムーズに活用できるよう備えている。	「特養つばさ グループホームつばさ 防災計画」を備え、7月には1部を夜間想定火災訓練、2部は洪水避難訓練と綿密におこなわれています。また「災害総合訓練実施要項」を実施状況の計画とし、「消防訓練通知書」を消防署に提出しています	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月身体拘束適正化勉強会において自尊心、羞恥心、プライバシーの確保に配慮したケアの大切さを周知している。またユマニチュードの4つの柱、「見る」「話す」「触れる」「立つ」を念頭において人間らしさを尊重した声掛けや対応を大切にしている。	以前にはトイレにカーテンのある場所とない場所がありましたが、昨年度全部に設置しました。名前はさんづけ、トイレ誘導をするときは、本人だけに聞こえる声掛けとする、依頼型でお願いすることも標準化されています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意向として、その日着たい服や羽織物はどうか、飲みたいもの、やりたい活動など様々な場面で、本人の思いや自己決定できるように声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、入浴、静養の時間など個々の意向を確認しながら本人のペースで過せるようにしている。生活歴から個々の利用者がどのような生活をしてきたかを知り、常に本人の立場で支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の希望に応じてカットやカラーを数日間に分け、ゆったりと行っている。理美容後には、より綺麗になった姿を写真に残している。入浴前には職員と一緒に着たい服を選びお洒落を楽しむようにしている。整容や化粧など入所前と同様に行えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きは利用者様をお願いしている。「やるから持ってきて」と利用者の役割となっている。週1回、季節のメニュー(時節食材・誕生日祝い)の提供やドリンクバイキングを開催。また焼きたてパンの提供や、おやつ作りを行い、楽しみある食事作りをしている。食材には庭の採れたて野菜を使用している。	配膳が済んだお皿を「これはここ、これはこっち」と並べ替える人は鼻歌を歌いながらやっていて、楽しみとしていることが伝わります。庭で育てた野菜も取り入れ、「これ、おいしいね」の声が聞かれる食事風景です	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月、体重測定を行い、体重変動があれば看護師、主治医に報告し摂取量、栄養バランスを検討。毎日、食事摂取量、水分量を記録し必要量が確保されているか確認。ショットグラスでの水分提供や、夜間の水分補給も行っている。また、看護師と連携して本人の咀嚼、嚥下に合った食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。自分でやっていた後、口腔内を確認し不足部分があれば補い、口腔内に食渣が残らないように注意している。自分でできない場合は歯ブラシ、スポンジブラシを使用し、職員が行い、清潔保持に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記し個々の排泄パターンを把握。本人に合った時間の声掛けやトイレ誘導、使用パットを換替。リハビリから布パンツ、パットからナプキンへ移行。なるべく下剤を使用せず自然排便できるように食事、運動、腹部マッサージ等を実施。朝食後はゆっくりトイレに座る環境を提供している。	便秘対策もあって散歩を積極的におこない、歩く機会を増やしています。温かいミルク(甘いのが良い人にはオリゴ糖入り)を毎朝励行するほか、週3回おやつで豆乳ジュースを提供、火曜日にはヨーグルト、木曜日には甘酒と、食でも尽力しています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給やメニューに乳製品や野菜を多く取り入れたり、散歩や運動を行い腸の働きを活性化させ自然排便を促している。排便状況の把握・腹部マッサージに加え、週3回豆乳ジュース(豆乳・黄桃・バナナ)を作り、提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴室へ行く事に抵抗を感じる方については、一緒に中庭を散歩してから浴室に誘うなど、一人一人が入浴を楽しめるよう工夫している。本人のこだわり(入浴方法)やペースを尊重し、洋服選びから入浴・着衣まで1時間以上かけて入浴を済ませる利用者もいる。	お風呂は週3回用意しています。現在夜入りしたいという人はいませんが、本人に何時ごろ入りたいかの確認をおこない、また利用者は好みのシャンプーやボディソープを使っています。同性介助の要望にも応えています	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や夜間の睡眠状況に応じて、日中の静養時間の調整を行っている。また夜間ぐっすり眠れるよう、日中に様々な活動を提供している。居室環境についても温湿度計の設置や、フロア内の灯りや音の調整など個々に合わせ対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報のファイリング・服薬一覧表の差し替え実施。与薬時には必ず本人の状態確認(排便状況・生活の様子等)を行っている。服薬の変更については特記事項の用紙で情報共有し、その後の経過についても注視している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花や植木の手入れ、家事作業・おしゃべり・個別レクリエーション、家族との時間など、生活歴を活かし、その人が好む話や役割となってきたこと、楽しみあることを提供し、生きがいを持って過ごせるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の咄嗟の希望でも、職員間で連携し屋外へ出掛けられるようにしている。桜やあじさいなど季節に合わせて咲いている場所を見つながらの散歩。遠出のバスハイクも実施している。外出先で偶然家族と会ったり、家族で毎年恒例となっていた場所に施設でも出掛けることに「家にいた頃と同じように連れて行ってもらえて嬉しいです」と家族も喜んでくれている。	「ドーナツ食べたい」に応じて出掛けるフットワークの良さがあります。向日葵を植えた庭が散歩コースにあり、「ぜひ持って帰って」と沢山譲ってもらえたので、記念撮影をした写真を「グループホームつばさ盛夏便り」に載せて家族にも報せたという例もあります	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	どの利用者にも楽しんでもらえるよう食費や経費から出費し、おやつや100円均一に買い物に出掛けることもある。買い物に出掛け際には自動会計機を実際に利用者に操作してもらったり、セルフのガソリンスタンドに寄り給油をするなど、新たな体験も楽しんでもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の取次ぎや手紙の投函をしている。後から読み返すことができるようにと、面会の都度、手紙を持ってきてくれる家族や、手紙を送ってくれる友人もいる。年賀状以外にも、普段取り組んでいる塗り絵を使い、春や夏の訪れを絵葉書にして利用者の近況とともに、家族に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内の環境整備に努め、個々の動線に配慮している。洗面所に塗り絵などの個人作品を展示している。整容しながら個々の作品に目をやり、利用者同士が褒め合う姿も見受けられる。ウッドデッキに園芸で植えた花を、窓から見える場所には野菜の苗を植え、毎日水やりや野菜の収穫を楽しんでいる。	ラックに女性週刊誌が入っていたり、手作りの日めくりカレンダーがあり、生活に安寧があることが感じられます。また1階は「トイレ」、2階は「お手洗い」との表示からは「どちらが利用者にわかりやすいか」を判断していることが視えます	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにあるソファは大人気で、特に冬場はソファでの日向ぼっこを楽しみにしている。食事・レクリエーション・家事作業などその時々に応じて座席を移動し、気の合う仲間同士で思い思いに過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との思い出の写真や感謝の日(母の日)に職員が送ったメッセージカードなど、大切な人に見守られ和やかに過ごすことができるよう配慮している。「自分の大切な物はすべて居室に置きたい。でもどこに置いたかわからなくなってしまう」という利用者もいるが、敢えて私物を減らすことはせず、「置き場所がわからなくなったら、一緒に探しましょう」という考え方で対応している。	居室前には透明のレターラックを取り付け、自分が作ったものや写真を入れてあります。自室の認識を高めるとともに、写真を見ながら会話が弾む日もあり、廊下での歩行訓練に楽しみを添えています。家族の協力が得られている事業所だけあって室内も温かみがあります	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには利用者と一緒に作った看板を使用している。各利用者の居室前には、フォトポケットを飾り、最近の活動の思い出を楽しめるようにしている。表札ではなく写真を見て、自分の居室だということを理解している利用者もいる。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2295100164		
法人名	社会福祉法人 正生会		
事業所名	グループホームつばさ(2階ユニット)		
所在地	焼津市田尻北790		
自己評価作成日	令和6年7月10日	評価結果市町村受理日	令和6年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_022_kan=true&amp;jirvovocd=2295100164-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_022_kan=true&amp;jirvovocd=2295100164-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和6年9月10日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

感染対策を行い、コロナ禍で実現できなかった事に積極的に挑戦している。折り紙教室・ギター演奏会・三線などおたっしゃクラブとの定期的な合同レクリエーションを利用者の皆さんはとても楽しみにしている。窓から見える場所には、なすやピーマンなどの野菜を植え、収穫した野菜は毎日の料理に使っている。獅子木遣り、市役所展望台、焼津の秋を見つけに行こう!!など、思いつきの詰まった街や催しに触れる機会を沢山企画している。ブレイクダンスを行った際には若い先生の言葉に、生き生きとブレイクダンスに挑戦する利用者の姿が印象的だった。個々の利用者の思いを大切に、ユマニチュードの取り組みも継続して行っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

例えばボランティアの木遣りは職員がそのグループに所属していることから、何事も地域と密着した取組となっていることが特長的な事業所です。花や野菜を植え、成長を楽しみとしながら食卓に取り入れるほか、大井川港に寄港したにっぼん丸を観に行くといった非日常にも果敢で、外界からの刺激に対し、感情や気分がさざ波をたてるのが自然にできていて、認知症の維持に寄与しています。生活面においても、例えば「洗濯機の中に入れる、スイッチは押せる、干せる」など作業を小分けして検討するとともに、「まず見せてみる、触ってもらう、一緒にやってもらう」と段階を追って取組んでいくことで、機能が復調した利用者もいます

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念:「笑顔あふれる和みの家～共に安心し、思いに寄り添う安らぎの場～」理念に基づいた部署目標と個人目標を設定し、日々の業務に取り組んでいる。また利用者が家族との絆を実感できるようにご家族様にもご協力いただきながらチームケアを展開している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	音楽療法の他、折り紙教室・漢字教室・ギター演奏などおたっしゃクラブとの合同レクリエーションに参加。また散歩やバスハイクに出掛けると、小学生が「こんにちは」と挨拶をしてくれたり、ご近所の方が「車を入れて庭の花を見て行って下さい」と声をかけて下さるなど、地域の皆さんとの心温まる交流が深まっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍が明け、春には地域の桜まつりも開催された。祭り会場には、ほとんどの利用者が足を運び、地域の皆さんと一緒に楽しい時間を過ごした。祭り会場では、地域の皆さんが声を掛けて下さり、利用者の皆さんも嬉しそうにんでいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みや現状報告を行い、助言をいただいている。コロナ禍が明け、顔を合わせて会議を開催できることに感謝している。地域の情報や課題など運営推進委員の皆さんから意見をいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の他、メール等を通し情報や助言をいただいている。市への事故報告の提出についてはメールにて行い、迅速な報告に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会、身体拘束適正化勉強会を開催している。対象者を決め、事例研究を行い、身体拘束に至る前段階でのケアのあり方について学び、実践している。また施設内研修ではその学びをまとめ、動画配信を行った。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、高齢者虐待防止勉強会を開催し、学びを深めている。また法人全体で、虐待防止委員会を開催し、高齢者虐待防止に向けた意識調査や不適切ケアに関する意識調査等を実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についてのDVDを使用して勉強会を開催し、学びを深めている。成年後見制度を利用または利用を検討している家族に対し、助言・支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実行している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置。家族への電話連絡やカンファレンス開催時、面会等の来所時には、意見・要望等の確認を行っている。カンファレンスにはキーパーソンだけでなく、その他のご家族も出席して下さることもあり、多くの意見をいただいている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会開催前には、全職員にアンケートを取り、職員からの意見に耳を傾け、業務改善につなげている。また利用者に「楽しんでほしい」という職員の気持ちを大切に、レクリエーションの企画や季節のメニューなど職員からの提案を大切にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、各職種に応じた評価表を用いて、職員が自己評価を行い、上司が個々の職員の成果や努力に対し、評価している。また評価の際には個人面談を行い、評価表だけでは表せない成果や職員の思いについても確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は実際に一人一人が体験できるよう複数回に分け少人数で行ったり、全職員が周知できるようWebを使うなど工夫している。認知症介護実践者研修や外部研修にも参加している。また研修費助成規程を設け、職員の学習意欲を助長し、資質向上とキャリアアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での交流(委員会・勉強会・行事)や外部研修に参加できる機会を多く作り、広い視野でケアに当たることができるよう取り組んでいる。R5年度には他施設の訪問によりショットグラスでの水分提供を開始した。Instagramのフォローにて他施設のレクリエーションの様子を学び、取り入れている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	暫定プランの作成。センター方式B-3シートの記入。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	暫定プランの作成。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定プランの作成。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	センター方式 D-5シートにて利用者に対するかかわり方のまなざしや態度の振り返りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染対策の配慮しながらも家族との時間を大切にできるよう工夫をしながら面会時間を設けている。家族との散歩やドライブ、法事への参列など、家族と連携し実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく、ご近所の方が面会に来て下さる方もおり、在宅で生活していた頃と同様のつながりを継続している。またバスハイクでは市役所の展望台や地元の商店街など思い出の場所への外出を楽しんでもらっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係にも配慮し、職員が間に入り橋渡しをしている。座席も一つの場所に固定せず、その時々状況に応じて移動できるようにしている。また事例研究を通し、利用者が孤立せず、生活できるよう取り組みを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期療養のためやむを得ず退所された利用者やご家族より、「またつばさで生活したい」というご希望をいただくことがある。必要に応じて、経過のフォローを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式 C-1-2、心身の情報(私の姿と気持ちシート)を利用して本人や家族の意向を確認しながら本人の立場で記入し、本人本位のケアプランを作成している。またユマニチュードの取り組みを継続して行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族や本人から生活歴や趣味、生活環境を聞き取り、本人がどのような暮らし方をしてきたかを把握している。暮らしの歴史の中から、本人が安心して生き生きと暮らす手がかりを見つけ馴染みのある暮らしが継続できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式C-1-1、D-1.2を用いて24時間の生活の流れや本人ができそうなことを見つける機会を作り、力を引き出している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度モニタリングを実施。介護計画が計画通り実施されているか、本人らしい生活を送るために課題はないか見直しを行っている。また半年に一度本人、家族、介護職、看護師、管理者、計画作成と会議を開催。出席者の意見を反映し、チームで介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別カルテはSOAPの書き方で記録を行っている。出勤時には必ずカルテを確認し客観的な事実、根拠を基に実践した結果を把握している。情報を共有する中で、新たな課題があればその場で話し合いを行い、介護計画の見直しに役立て特記事項として記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	園芸・誕生会・レクリエーション・季節メニューなど利用者やご家族のニーズを最大限に取り入れることができるよう実施の2ヶ月前から起案を立て、準備を行う。またおたっしやクラブとの合同レクリエーションなど施設外の人達との交流も定期的実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	大漁旗、みなとマラソン、水族館、魚釣り大会、獅子木遣り、コスモス畑、秋祭り、焼き芋大会、菊花展、焼津の秋を見つけに行こう!!など思い出のたくさん詰まった街や催しに触れる機会を沢山企画している。またブレイクダンスを通し、若い先生との交流はとても良い刺激となった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員の利用者が協力医の往診を利用している。利用者1人に対し、月2回往診あり。体調経過を往診時対応表に記載して医師への情報提供とし、看護師が日頃の様子を主治医に報告している。また薬局との情報共有も綿密に行われている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	軟膏一覧表・未排便時の対応表の作成、薬事情報の差し替え。看護師不在時にはラインにて看護師に報告。往診・受診結果についても、看護師から介護職員へ申し送りを行い、看介護ともに統一したケアに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は直ぐに担当の相談員や病棟看護師を確認し入院時情報提供書を作成し、手渡しで顔が見える関係を築いている。また状況に応じてFAX、電話にて情報交換を行い、早期に退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に変化があれば随時家族に連絡を行い、カンファレンスを行い、家族の意向を確認しながら事業所でできることを説明し同意を得ている。また、半年に一度行うカンファレンスでは都度、急変時対応確認書にて緊急時や終末期のあり方を確認しチームで情報を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて定期的に訓練を行い、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルの整備。定期的な防災訓練の実施。つばさ方式の組手にて特養2階へ利用者を搬送する訓練を実施。定期的に防災頭巾の見直しを実施。全職員に専用アプリにて、現在の状況や指示を伝達。専用アプリは災害時だけでなく、研修の動画配信や職員間の伝達など、普段から活用し、緊急時にもスムーズに活用できるよう備えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月身体拘束適正化勉強会において自尊心、羞恥心、プライバシーの確保に配慮したケアの大切さを周知している。またユマニチュードの4つの柱、「見る」「話す」「触れる」「立つ」を念頭において人間らしさを尊重した声掛けや対応を大切にしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意向として、その日着たい服や羽織物はどうするか、飲みたいもの、やりたい活動など様々な場面で、本人の思いや自己決定できるように声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、入浴、静養の時間など個々の意向を確認しながら本人のペースで過せるようにしている。生活歴から個々の利用者がどのような生活をしてきたかを知り、常に本人の立場で支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の希望に応じてカットやカラーを数日間に分け、ゆったりと行っている。理美容後には、より綺麗になった姿を写真に残している。入浴前には職員と一緒に着たい服を選びお洒落を楽しむようにしている。整容や化粧など入所前と同様に行えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きは利用者様をお願いしている。「やるから持ってきて」と利用者の役割となっている。週1回、季節のメニュー(時節食材・誕生日祝い)の提供やドリンクバイキングを開催。また焼き立てパンの提供や、おやつ作りを行い、楽しみある食事作りをしている。食材には庭の採れたて野菜を使用している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月、体重測定を行い、体重変動があれば看護師、主治医に報告し摂取量、栄養バランスを検討。毎日、食事摂取量、水分量を記録し必要量が確保されているか確認。ショットグラスでの水分提供や、夜間の水分補給も行っている。また、看護師と連携して本人の咀嚼、嚥下に合った食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。自分でやっていた後、口腔内を確認し不足部分があれば補い、口腔内に食渣が残らないように注意している。自分でできない場合は歯ブラシ、スポンジブラシを使用し、職員が行い、清潔保持に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記し個々の排泄パターンを把握。本人に合った時間の声掛けやトイレ誘導、使用パットを換替。リハビリから布パンツ、パットからナプキンへ移行。なるべく下剤を使用せず自然排便できるような食事、運動、腹部マッサージ等を実施。朝食後はゆっくりトイレに座る環境を提供している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給やメニューに乳製品や野菜を多く取り入れたり、散歩や運動を行い腸の働きを活性化させ自然排便を促している。排便状況の把握・腹部マッサージに加え、週3回豆乳ジュース(豆乳・黄桃・バナナ)を作り、提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴室へ行く事に抵抗を感じる方については、一緒に中庭を散歩してから浴室に誘うなど、一人一人が入浴を楽しめるよう工夫している。本人のこだわり(入浴方法)やペースを尊重し、洋服選びから入浴・着衣まで1時間以上かけて入浴を済ませる利用者もいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や夜間の睡眠状況に応じて、日中の静養時間の調整を行っている。また夜間ぐっすり眠れるよう、日中に様々な活動を提供している。居室環境についても温湿度計の設置や、フロア内の灯りや音の調整など個々に合わせ対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報のファイリング・服薬一覧表の差し替え実施。与薬時には必ず本人の状態確認(排便状況・生活の様子等)を行っている。服薬の変更については特記事項の用紙で情報共有し、その後の経過についても注視している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花や植木の手入れ、家事作業・おしゃべり・個別レクリエーション、家族との時間など、生活歴を活かし、その人が好む話や役割となってきたこと、楽しみあることを提供し、生きがいを持って過ごせるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の咄嗟の希望でも、職員間で連携し屋外へ出掛けられるようにしている。桜やあじさいなど季節に合わせて咲いている場所を見つかけながらの散歩。遠出のバスハイクも実施している。外出先で偶然家族と会ったり、家族で毎年恒例となっていた場所に施設でも出掛けることに「家にいた頃と同じように連れて行ってもらえて嬉しいです」と家族も喜んでくれている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	どの利用者にも楽しんでもらえるよう食費や経費から出費し、おやつや100円均一に買い物に出掛けることもある。買い物に出掛けた際には自動会計機を実際に利用者に操作してもらったり、セルフのガソリンスタンドに寄り給油をするなど、新たな体験も楽しんでもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の取次ぎや手紙の投函をしている。後から読み返すことができるようにと、面会の都度、手紙を持ってきてくれる家族や、手紙を送ってくれる友人もいる。年賀状以外にも、普段取り組んでいる塗り絵を使い、春や夏の訪れを絵葉書にして利用者の近況とともに、家族に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内の環境整備に努め、個々の動線に配慮している。洗面所に塗り絵などの個人作品を展示している。整容しながら個々の作品に目をやり、利用者同士が褒め合う姿も見受けられる。ウッドデッキに園芸で植えた花を、窓から見える場所には野菜の苗を植え、毎日水やりや野菜の収穫を楽しんでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにあるソファは大人気で、特に冬場はソファでの日向ぼっこを楽しみにしている。食事・レクリエーション・家事作業などその時々に応じて座席を移動し、気の合う仲間同士で思い思いに過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との思い出の写真や感謝の日(母の日)に職員が送ったメッセージカードなど、大切な人に見守られ和やかに過ごすことができるよう配慮している。「自分の大切な物はすべて居室に置きたい。でもどこに置いたかわからなくなってしまう」という利用者もいるが、敢えて私物を減らすことはせず、「置き場所がわからなくなったら、一緒に探しましょう」という考え方で対応している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには利用者と一緒に作った看板を使用している。各利用者の居室前には、フォトポケットを飾り、最近の活動の思い出を楽しめるようにしている。表札ではなく写真を見て、自分の居室だということを理解している利用者もいる。		